

平成30年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

<p>進学型総合学科としての特性を活かし、新しい時代に求められる資質・能力を身に付けた人物を育成する学校。</p> <p>1 主体的、対話的で深い学びを通し、「確かな学力」を身につけさせる。</p> <p>2 生徒自らが主体性を持って思考し判断し、自分の考えを表現・発表できる授業を実践する。</p> <p>3 キャリア教育を通して、将来社会の一員として活躍しようとする姿勢、自己を実現する姿勢を醸成する。</p> <p>4 生徒一人一人が個性を輝かせ、多様な人々との違いを認め合い、協働して学び、ともに成長する態度を育成する。</p>
--

2 中期的目標

<p>1 生徒の「確かな学力」の育成及び教員の授業力の向上</p> <p>(1) 「わかる授業」「生徒が主体性を持って参加する授業」をめざした授業改善に取り組む。 ア 「生徒の思考を促す授業」をキーワードに、平成25年度に設置した「授業力向上プロジェクトチーム」を核として、また、授業アンケート結果を効果的に活用して、研究授業や研修等に組織的に取り組み、主体的、対話的で深い学びの実現をめざす。 ※生徒向け学校教育自己診断における「授業満足度」(平成29年度62.9%)を毎年引き上げ、2020年度には75%以上にする。</p> <p>2 夢と志を育むためのキャリア教育及び確実な進路実現につながる進路指導の充実</p> <p>(1) 「産業社会と人間」や「総合的な学習の時間」等の内容とその成果を吟味し、キャリア教育の体系的な全体指導計画をより一層効果のあるものにする。 ア 「産業社会と人間」や「総合的な学習の時間」を核にして、キャリア教育の体系的な全体指導計画をより一層効果のあるものにする。 ※生徒向け学校教育自己診断における「キャリア教育に関する充実度」(平成29年度66.0%)を毎年引き上げ、2020年度には75%以上にする。</p> <p>(2) ア グローバル人材の育成に資するため、海外修学旅行の推進を継続する。また、国際交流や語学研修を継続し、生徒にグローバルな視点や姿勢を身につけさせる。 ※「海外修学旅行の満足度」に関する生徒向け・保護者向けアンケートにおいて、平成30年度以降ともに肯定率90%以上を維持する。</p> <p>(3) 確実な進路実現につながる進路指導ができるよう、進路指導に関する3年間の全体計画を充実させる。 ア 進路指導に関する3年間の全体計画を充実させるとともに、生徒・保護者に対して情報提供をきめ細かく行い、家庭と学校との連携を密にする。 ※学校教育自己診断における「進路指導に関する満足度」(平成29年度生徒52.5%保護者59.1%)を毎年引き上げ、2020年度には生徒・保護者ともに70%以上にする。 ※国公立大学と難関中堅私立大学への合格者数の合計について、過去の連続3年間平均の最大値〔102名〕以上をめざすと同時に、センター試験出願者数について、過去の連続3年間平均の最大値〔129名〕以上をめざす。</p> <p>3 安全・安心で居心地のよい学校環境づくり、カウンセリングマインドを伴った生徒指導の徹底、生徒の生活規律・自己管理の徹底</p> <p>(1) いじめをはじめとする人権侵害事象が起こらないよう、すべての教育活動を通じて、生命や人権を大切にする精神を徹底する。 ア 平成25年度に定めた「学校いじめ防止基本方針」に基づいて、「いじめの起こらない」学校づくりを推進する。 ※アンケート「安全で安心な学校生活を過ごすために」をより一層有効活用し、いじめ事象(それに準ずる事象を含む)発生件数を0にする。</p> <p>(2) カウンセリングマインドを伴った生徒指導を徹底し、安全・安心で居心地のよい学校環境づくりを推進する。 ア 共生推進教室をめぐる取組みを充実させるとともに、知的障がいや発達障がいをはじめとする配慮を要する生徒等への対応に関する研修を行い、「合理的配慮」を意識して、生徒に対してよりきめ細かい対応ができる体制を構築する。 イ より一層、教育相談室やSCの存在を生徒・保護者に周知するとともに、配慮を要する生徒等に全教職員が関与する体制をつくり、教育相談機能全般の充実を図る。 ※学校教育自己診断における「教育相談機能の充実度」(平成29年度生徒62.0%保護者54.7%)を毎年引き上げ、2020年度には生徒・保護者ともに70%以上にする。</p> <p>(3) 遅刻を減らし、安定した生活リズムで学校生活を送れるようにするとともに、挨拶・服装等を含め、生徒の生活規律の力を向上させる。 ア 他校の実践に学ぶなどして、効果のある新たな取組みを導入し、学校全体で遅刻減少のムードをつくる。 ※年間延べ遅刻者数(平成29年度2,017件12月現在)を毎年引き下げ、2020年度には1,500件以下にする。 イ 挨拶・服装を含め、生徒の生活規律の向上に取り組み、生徒全員が学業に専念できる雰囲気づくりに取り組む。</p> <p>4 広報活動の充実</p> <p>(1) 中学生や中学校、教育産業等に対して、進学型総合学科としての本校の教育活動を広報するための取組みをさらに強化する。 ア 学校案内のリーフレットに加え、広報誌「芦間ニュース」を、内容をより充実させて継続発刊し、中学校等へ配付する。 イ 生徒・保護者対象のオープンスクール、中学校や教育産業の教員対象学校説明会の内容の充実を図り、参加者数の維持・増加をめざす。 ※オープンスクールや学校説明会への参加者数の合計(平成28年度約1,070名、平成29年度約1,250名)を、1,100名以上に保つ。 ※志願倍率(平成27年度前期選抜1.57倍、平成28年度一般選抜1.22倍、平成29年度選抜1.13倍)を、恒常的に1.20倍以上に保つ。</p> <p>5 計画的な備品等の更新</p> <p>(1) 新たな取組みに必要な備品等や老朽化してきた備品等を計画的に更新していく。</p> <p>6 働き方改革</p> <p>(1) 教職員の時間外勤務の縮減、年休取得を推進する。 ※校内の各会議の所要時間について、50分以内を目標とする。また、8月に連続5日間の準閉庁日を設け、夏季特休や年休の取得を推進する。</p>
--

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成30年11月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>全体を通して「あてはまる」と「ややあてはまる」を合わせた評価(以下、「肯定率」という。)が、1・3年生に比べて2年生が低い傾向にある。緊張感を持って高等学校に入学した1年生や進路決定を控えた3年生に比べて、2年生は意識が低いと言えるのかもしれない。</p> <p>○高校生活全般について</p> <ul style="list-style-type: none"> 概ね、「芦間高校に入学して良かった」と感じているのは喜ばしいことであるが、5人に1人ほどの割合で、そう思っていない生徒がいる。個々を尊重する総合学科においては、そう思わない生徒にも目を向けて、その原因を探り、きめ細かな対応を行っていく必要がある。 <p>○教科・科目の学習について</p> <ul style="list-style-type: none"> 「授業は、分かりやすい」については、生徒、保護者ともに肯定率が減少している。一方、教員は指導方法の工夫、改善は行っていると考えており、その差は大きい。「わかりやすい」かどうかについては、求める学習レベルにもよるが、進路実現に向けて高いレベルの学習内容をわかりやすく伝える工夫が、更に必要と考えられる。 「家庭学習」については、増加したと感じている生徒は増えているが、逆に保護者については減少している。生徒の多くは、中学校の頃、学習塾に通っており、高校では通っていない分、客観的に見て学習量が少ないのではないかと考えられる。教員は課題を与え、授業中の小テストなどで家庭学習の成果を測っているが、十分ではないと考えている。家庭とも連携しながら、家庭学習を充実させていく必要がある。 	<p>第1回(H30.07.18)</p> <p>[1] 授業改善に向けての取組みについて(授業見学)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「本時の目標」が板書されていなかったのは残念。主体的な学びという点では生徒の思考を促してはいなかった。 先生は自信を持って授業をしていた。先生が答えるのではなく生徒が自ら答えを見つける授業なのがよい。 <p>[2] 平成30年度学校経営計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> アンケートの生徒の満足度について、なぜ満足できていないかの分析をし、授業改善に結び付けていくべき。 学級、学校集団が意欲を持つことが成果につながり、いじめの減少にもつながる。 <p>第2回(H30.11.17)</p> <p>[1] 第2回オープンスクールについて</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒はプレゼンテーションが得意でパフォーマンスが高い。特定の生徒ではなく多くの生徒が力を合わせて運営を行うのは教育力の成果だと思う。オープンスクールでは良いところしか言わないが、友人や先生の協力でうまくいくようになったという体験があればもっと引き寄せることができると思う。 <p>[2] 平成30年度学校経営計画の進捗状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業環境を変えるため学校経営推進費でICT化を要望していたが通らなかった。 授業改善に向けて研修会を計画しているが、研修会のようなものでなくても、互いに授業を見合せて、放課後に意見交換をするようなOJTのような研修も

<p>る。</p> <p>○科目選択について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「科目選択指導」については、2・3年生は否定的な意見が相当数あり、本人の望むような選択になっていない可能性がある。選択指導では、興味・関心より進路決定に必要な科目を第一に考えているが、生徒の希望はそうではない場合があるのかもしれない。総合学科の利点をさらに生かしていくため、満足のできる選択指導へ向けての改善点を探る必要がある。 <p>○進路指導やキャリア教育について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「進路指導について考える機会」の肯定率は各学年とも高くなっている。1・2年が特に高いのは、今年度進路HRを設定したのが効果的であった。 ・「キャリア教育」については、1年生は「産業社会と人間」で『ジョブカバリー』や『未来のミカタ』に取り組んでいるため、肯定的な意見が多い。また、2年生も「総合的な学習の時間」に『総学論文』に取り組んでいるため同様である。 <p>○生徒指導、教育相談、人権教育等について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「生徒指導の方針は理解できる。」の肯定率は決して高くは無いが、現在の生徒指導方針は落ち着いた学習環境を構築する上で最低限の方針だと考える。頭ごなしの指導ではなく指導の必要性をしっかりと説明し理解させることがこれまで以上に肝要である。 ・「学校行事」については高い肯定率となっており、生徒会を中心に学校行事は充実しているものと考えられる。 ・「教育相談」についての肯定率はわずかに上昇した。「昼休みに教室ににくい生徒」が「昼食をとる場所」として日常よく使用しているほかに、相談室での「軽い相談」を希望するケースも多い。相談室では解決できない事案は、スクール・カウンセラーにつないでケアを続けている。 ・「いじめ対応」に関しては、肯定率は高くは無いが否定的な意見も少ない。「わからない」が多いのはいじめに直面することがほとんどないからであると考えられる。しかしながら、まったく起こっていないわけではなく、日頃の指導により、生徒の意識を高め、未然に防ぐことで、否定的な意見をゼロに近づける努力が必要である。 <p>○働き方改革について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度より教員の働き方改革についての項目を加えた。社会全体で働き方改革が求められる中、本校においてもいくつかの取組みを行った。部活動指導・進学講習など多忙な中、一定の成果として表れてきている。 	<p>効果がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・働き方改革という点について、今までの日本は「一生懸命働く」ということが成果につながっている反面、6割の人がメンタルヘルスの不調につながっている。ストレスはあってもそれ以上にやりがいがあればストレスはなくなる。 ・授業参観の参加数は全員で57名、生徒数にして40名くらいの生徒の保護者の参加があった。参観の案内が保護者に伝わっていないこともあると聞いている。 ・授業参観以外に見に来ていただく機会を作るのはどうか。論文の発表などはどうか。 ・1年生に3年生の発表を見せるということも、伝統を伝えるという意味で、良いのではないか。 <p>第3回 (H31.02.16)</p> <p>[1]平成30年度学校評価(学校経営計画の達成状況)について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数値としてはあまり良くないが、求めるレベルにもよる。肯定的な生徒はどうして肯定的なのか、否定的な生徒はどうして否定的なのかを分析する必要がある。先生は生徒を見て工夫していると思うが、それで生徒は依存的になっている部分もある。主体的に生きていく力、志を持つことが大切である。 ・芦間高校の志願者が減っている。学校周辺の中学生は芦間はレベルが高いので受験をためらっている。希望調査では低い但最终的にはあまり変わらないのではないと思う。昨年から大学受験が難しくなっているが、塾へ来る芦間進学希望の生徒は進学実績を重視している。授業が分かりやすいという設問の肯定的な意見が低いのは高校の内容が難しいからとも考えられる。 ・わかりやすいかどうか生徒が他校の授業と比較したわけではないので数値が低いわけではない。テストの結果につながることでもあるので卒業してから評価が変わることもある。 ・評価の達成率が良くないのは目標が高いということも言える。目標を達成するとさらに目標が高くなるので達成しにくくなるが頑張ることが大切である。 ・先生は余裕を持って指導をしているのか。余裕がないと生徒はそれを感じ取る。余裕を持って前向きに授業をしてほしい。 ・先生は何に時間をとられているかを探る必要がある。別の高校では朝・夕の電話対応を留守番電話に切り替えることにより改善された。 <p>[2]平成31年度学校経営計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領への対応が重要である。新テストは難しいようであるが、業者は情報を持っているので活用すればいい。 ・広報活動については、最近スマートフォンが普及しているので、HPも対応が必要だと思う。 ・生徒の自己教育力が大切である。生徒が依存的になると学校への期待が高まりすぎ、満足度が下がる。 ・指定校推薦の説明会で書類を書く際も子どもはすぐに先生を頼る。生徒は簡単に安全は方向を求めている。 ・企業は多少間違っていることがあっても主体的に動く人材を求めている。 ・受験生を育てるのではなく、人間を育てることをめざすべきである。 ・保護者に学校に来る機会を増やしてもらって、学校への理解を深めてもらうようにPTAも活動していきたい。 ・働き方改革の一環として、会議の目的が情報共有であれば資料を見てもらうだけで会議をせず済む。意思統一が目的であれば必要ではあるが効率化はできるのではないと思う。 <p>※平成30年度学校評価について了承いただくとともに、31年度学校経営計画について、承認をいただいた。</p>
---	--

府立芦間高等学校

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 生徒の確かな学力の育成及び教員の授業力の向上	(1) 管理職と教員が一体となり授業改善に取り組む。 ア 研究授業や校内研修による授業改善の推進、授業アンケートを活用した授業改善の取組の実施 (2) 家庭での学習習慣を身に付けさせるための取組の推進 ア データ分析から効果的な取組を策定する。	(1) ア・授業力向上に関する校内研修を実施する。 また、各教科において、「AL 推進者」を設け、AL を推進する。 ・各教科が、「わかる授業」「生徒が主体的に思考する授業」をテーマとし、AL へと質的な転換をめざした研究授業に取り組む。 また、授業アンケート結果に基づき、課題の分析、解決のための改善策を策定する。 ・管理職は授業観察の結果を教員にフィードバックし、「わかる授業」確立のための指導助言を行う。 (2) ・家庭での学習習慣を身に付けさせるための効果的な取組を引き続き検討する。 ア・外部の「学力生活実態調査」を実施・分析し生徒の家庭学習時間増へつなげる。	(1) ア・校内研修を1回以上実施。 ・学校教育自己診断(生徒)における「授業満足度」(質問番号2,3、以下()は質問番号)70%以上(平成29年度62.9%)。 ・第2回授業アンケートの「全校・全教員共通質問項目」の肯定率が2項目ともに70%を切る授業の延べ講座数40講座以下(平成29年度54講座)。 ・第2回授業アンケートの「質問項目3～9の評価の平均値」の全教員平均3.2以上(平成29年度3.18)。 ・管理職による授業見学2回以上 (2) ・学校教育自己診断における「家庭での学習時間の充実に関する項目」の肯定率の平均55%以上(平成29年度43%)。	(1) ア・校内研修を未実施。△ ・学校教育自己診断(生徒)「授業満足度」58%。△ ・第2回授業アンケート「全校・全教員共通質問項目」肯定率が2項目ともに70%を切る授業の延べ講座数67講座(非常勤除47)。△ ・第2回授業アンケートの「質問項目3～9の評価の平均値」の全教員平均3.2。○ ・管理職による授業見学2回○ (2) ・自己診断における「家庭での学習時間の充実に関する項目」肯定率平均51%。△
2 夢と志を育むためのキャリア教育及び進路指導の充実	(1) キャリア教育の充実 ア より一層効果のある全体指導計画の検討・再構築 イ グローバル人材育成 (2) 科目選択ガイダンス機能の充実 ウ 丁寧な選択指導 (3) 進路指導の全体計画の充実 エ 進路指導の全体計画の充実 オ 生徒・保護者の希望やニーズに沿った進路実現 (4) 生徒の人的成長 カ 部活動参加促進	(1) ア・「産社」「総学」のより一層効果のある全体指導計画を検討し再構築する。 イ・平成29年度以降入学生についても、海外修学旅行や国際交流の推進を継続する。 (2) ウ・科目選択の指導において、教務部と進路指導部と担任団の連携を強化し、生徒や保護者が満足するよう、丁寧に指導する。 (3) エ・確実な進路実現につながる進路指導ができるよう、進路指導に関する3年間の全体計画を充実させる。 オ・進路指導システム「ASMSサポートシステム」をより一層充実させる。 (4) カ・人間力を高めるため、部活動参加を促す。	(1) ア・学校教育自己診断(生徒)における「キャリア教育の充実」(7)の肯定率の平均75%以上(平成29年度66%)。 イ・「海外修学旅行の満足度」90%以上。(平成29年度96%) (2) ウ・学校教育自己診断(生徒)における「科目選択指導のきめ細かさ適切さ」(8)の肯定率70%以上(平成29年度58.4%)。 (3) エ・学校教育自己診断における「進路指導の満足度」(6)生徒・保護者ともに67%以上(平成29年度生徒52.5%保護者59.1%)。 オ・国公立大学と難関中堅私立大学への合格者数の合計が過去の連続3年間平均の最大値[102名]以上。 ・センター試験出願者数が過去の連続3年間平均の最大値[128名]以上。 (4) カ・新入学生徒の「部活動への加入率」80%以上(平成29年度73.0%)	(1) ア・学校教育自己診断(生徒)における「キャリア教育の充実」の肯定率の平均71%。△ イ・「海外修学旅行の満足度」98%以上。◎ (2) ウ・学校教育自己診断(生徒)における「科目選択指導のきめ細かさ適切さ」の肯定率58%。△ (3) エ・学校教育自己診断における「進路指導の満足度」生徒87%保護者77%。○ オ・国公立大学と難関中堅私立大学への合格者数の合計69名△ ・センター出願者数90名。△ (4) カ・新入学生徒の「部活動への加入率」83%○
3 安全・安心で居心地のよい学校環境づくり、カウンセリングマインドを伴った生徒指導の徹底、生徒の生活規律・自己管理の徹底	(1) 生命や人権を守る精神の徹底 ア 「学校いじめ防止基本方針」に基づいた学校運営 (2) カウンセリングマインドの徹底 イ 「合理的配慮」を意識したきめ細かい対応 ウ 相談室の存在の周知等、教育相談機能全般の充実 (3)、生活規律力の向上 エ 遅刻減少等生徒の生活規律・自己管理の力の向上	(1) ア・平成25年度に定めた「学校いじめ防止基本方針」に基づいて、「いじめの起こらない」学校づくりを推進する。 (2) イ・校内研修を行い、「合理的配慮」を意識して、障がいのある生徒をはじめとする配慮を要する生徒等の「困り感」の把握や解決により一層尽力する。 ウ・より一層、教育相談室やSCの存在を生徒・保護者に周知するとともに、配慮を要する生徒等に全教職員が関与できる土壌をつくり、教育相談機能全般の充実を図る。 (3) エ・遅刻、挨拶、服装など、生徒の生活規律・自己管理の力を向上させる。	(1) ア・教育相談担当者会議と連携して、校内で啓発に資する取組を実施。 (2) イ・校内研修を1回以上実施。(平成29年度1回) ・特別支援教育委員会の機能を充実させ、年間5回以上会議を開催。(平成29年度4回) ウ・学校教育自己診断における「教育相談機能の充実度」生徒(13)・保護者(14)ともに68.0%以上(平成29年度生徒62.0%保護者54.7%) (3) エ・生徒会等、生徒自らが企画する、遅刻減少に向けた取組の実施。 ・年間延べ遅刻者数2,000件以下(平成29年度2,658件)。	(1) ア・教育相談担当者会議と連携し、生徒向け講演会を実施。○ (2) イ・校内研修を1回実施。○ ・特別支援教育委員会の機能を充実させ、年間7回会議を開催。○ ウ・生徒65.2%、保護者50.6%△ (3) エ・生徒会中心に遅刻減少の取組「おはよう運動」実施。○ ・平成30年度597件減2061件。○
4 広報活動の充実	(1) 広報の強化 ア 広報誌発刊 イ 説明会の充実 ウ HPでタイムリーなニュースの提供	(1) ア・広報誌「芦間ニュース」を、内容をより充実させて継続発刊する。 イ・オープンスクールや学校説明会、中学校や塾の教員対象の説明会の内容を充実する。 ウ・常に最新の情報をHP上で提供し、芦間高校への関心を高める。	(1) ア・「芦間ニュース」の発刊。 イ・オープンスクールや学校説明会への参加者数の合計1,100名以上(平成29年度約1,200名)ならびに参加者の肯定的回答95%以上。(平成29年度100%) ウ・入学者アンケートでのHP閲覧率70%	(1) ア・発刊済 ○ イ・2回オープンスクール参加者数約1,400名◎ 参加者の肯定的回答100% ◎ ウ・入学者アンケートでのHP閲覧率90% ◎
5 働き方改革	(1) 教職員の時間外労働縮減、年休取得促進	(1) ア・校内の各会議を50分以内職員会議は60分以内とする。 イ・8月のお盆期間中を準閉庁日とする。	(1) ア・職員会議での達成率70%。 イ・期間中の休暇取得率70%。	(1) ア・職員会議での達成率50%△ イ・期間中の休暇取得率90%◎

